

平成17年3月期 第3四半期財務・業績の概況(連結)



平成17年2月14日

上場会社名 株式会社学習研究社 上場取引所 東証第一部
 コード番号 9470 本社所在都道府県 東京都
 (URL <http://www.gakken.co.jp/>)
 代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 遠藤 洋一郎
 問合せ先責任者 役職名 取締役経理グループ担当 氏名 小林 宏夫 TEL (03) 3726 - 8111 (代)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有・**無**
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有・**無**
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有・**無**

2. 平成17年3月期第3四半期財務・業績の概況(平成16年4月1日 ~ 平成16年12月31日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 (注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期(当期)純利益 | |
|-------------|--------|-----|-------|---|-------|---|------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 17年3月期第3四半期 | 62,816 | 9.8 | 1,575 | | 1,874 | | 2,979 | |
| 16年3月期第3四半期 | 69,659 | | | | | | | |
| (参考)16年3月期 | 99,540 | | 2,842 | | 2,317 | | 1,396 | |

| | 1株当たり四半期(当期)純利益 | | 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 | |
|-------------|-----------------|----|------------------------|---|
| | 円 | 銭 | 円 | 銭 |
| 17年3月期第3四半期 | 28 | 14 | | |
| 16年3月期第3四半期 | | | | |
| (参考)16年3月期 | 13 | 40 | | |

(注)当期より四半期財務・業績の概況の開示を行っているため、売上高を除いて前年第3四半期の業績及び増減率は記載していません。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国経済は、企業の設備投資や個人消費に堅調な動きなど回復基調が見られたものの、原材料価格の高騰や為替動向など景気の先行きに不透明感が出てまいりました。

出版業界におきましては、2004年の総販売額が書籍のベストセラー効果により雑誌の低迷をカバーし8年ぶりに前年を上回りました。

このような状況の中で、当グループは恒常的な利益体質の確立に努めながら、高齢者対象のウェルネス事業を始めとする新規事業の本格的な稼働に取り組んでおります。しかしながら当第3四半期においては、直販事業における減収や市販事業で週刊百科の不振などが影響し、厳しい状況で推移いたしました。

なお、当グループは事業の特性から第4四半期に売上が集中する傾向があり、四半期ごとの業績には著しい季節的な変動があります。

この結果、第3四半期の売上高は628億16百万円(前年同期比 9.8%)、経常損失は18億74百万円、四半期純損失は29億79百万円となりました。

事業の種類別セグメントの状況は次のとおりであります。

直販事業は、幼児市場における全般的な予算減少や保育所運営費弾力化による教材・備品類の買い控え、家庭向け学習教材は販売組織の減少や発行回数の変更により売上高が低迷、学習セット教材「ニューマイティ」は製作遅れによる売上のずれが生じております。また、文教市場では予算縮小・教材購入選択基準の変更などの影響もあり学校用品・教材類の販売が低迷いたしました。直販事業の売上高は前年同期比17.4%減の165億22百万円となりました。市販事業は、小・中学生向け学習参考書類や子会社(株)学研トイホビーのしゃべるバイリンガル地球儀「オデッセイグローブ」などは好調に推移いたしました。週刊百科の売上及び、「GET ON!」や旧立風書房の雑誌群を中心とした雑誌収入広告料が低迷いたしました。市販事業の売上高は前年同期比5.8%減の248億58百万円となりました。信販事業は、安定した収益基盤の確保から審査の厳格化や取引加盟店の選別をより強化した影響を受け、取扱高が減少いたしました。信販事業の売上高は前年同期比24.2%減の49億39百万円となりました。能力開発事業は、幼児向けの「プレイルーム」や幼児・小・中学生対象の「算・国・英教室」などの教室事業は好調に推移しておりますが、高校

生対象の「学研模試」は競争激化が響き、売上高は前年同期を下回っております。また、子会社(株)学研ジー・アイ・シーの「大学入試現役合格システム教材」は、中途解約数が依然高水準であり、厳しい状況で推移しております。能力開発事業の売上高は前年同期比1.7%減の105億52百万円となりました。その他事業は、職域通信販売向けの学習教材や「大人の科学シリーズ」「頭脳ゲーム群」などが堅調に推移、また子会社(株)学研メディコンの就職情報事業も雇用環境にやや明るさが見えたことから売上が回復したものの、CD製作事業や輸出関連事業の売上高が前年に比べ減少いたしました。その他事業の売上高は前年同期比1.3%減の59億43百万円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 |
|-------------|---------|--------|--------|-----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 17年3月期第3四半期 | 168,423 | 43,583 | 25.9 | 411 77 |
| 16年3月期第3四半期 | | | | |
| (参考)16年3月期 | 182,988 | 46,879 | 25.6 | 442 80 |

(注)当期より四半期財務・業績の概況の開示を行っているため、前年第3四半期については記載しておりません。

【連結キャッシュ・フローの状況】

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期末残高 |
|-------------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 17年3月期第3四半期 | 7,901 | 432 | 7,382 | 25,348 |
| 16年3月期第3四半期 | | | | |
| (参考)16年3月期 | 5,067 | 738 | 2,113 | 25,253 |

(注)当期より四半期財務・業績の概況の開示を行っているため、前年第3四半期については記載しておりません。

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期における総資産は、前期末に比べ145億64百万円減少し、1,684億23百万円となりました。主な要因は、売上の季節的な傾向による売上債権回収増により、売掛金及び受取手形の減少83億19百万円や割賦売掛金回収による減少77億75百万円など流動資産が前期末に比べ143億67百万円減少によるものであります。

キャッシュ・フローの面では、営業活動において売上債権の減少による資金増加(160億97百万円)があるものの、税金等調整前四半期純損失19億23百万円、仕入債務の減少(21億54百万円)や財務活動において長期借入金の返済(86億84百万円)による資金減少もあって、当第3四半期末の現金及び現金同等物は95百万円減少し、253億48百万円となりました。

平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----|--------|-------|-------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 通期 | 96,200 | 1,900 | 1,150 |

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期)10円86銭

[業績予想に関する定性的情報等]

平成16年11月22日中間決算短信発表時に開示いたしました平成17年3月期の業績予想につきましては、セット教材の売上回復やムック・学習参考書類の売上増もあり、現時点での変更はありません。

なお、上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と大幅に異なる可能性があります。

以上